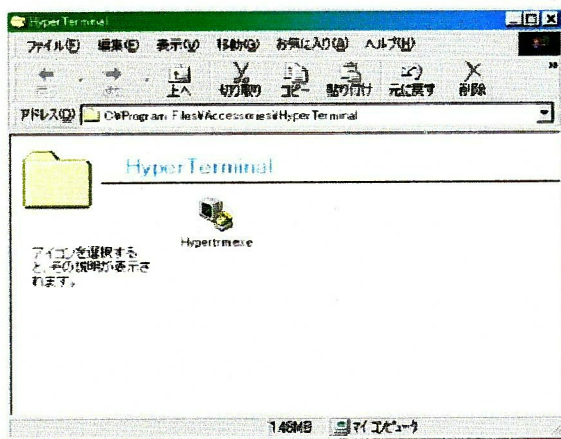
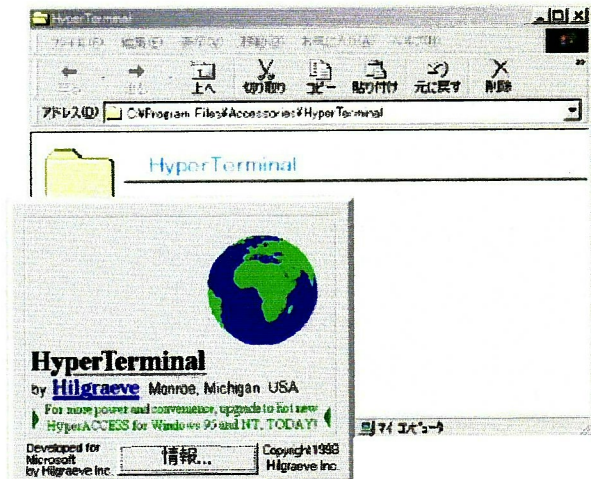
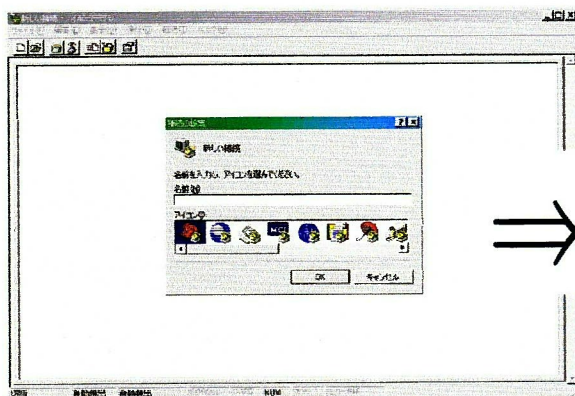
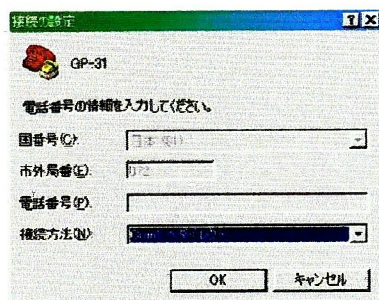
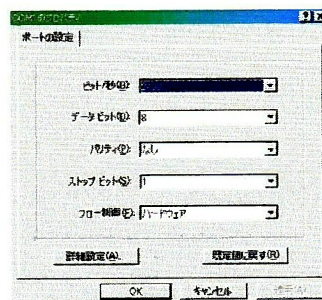
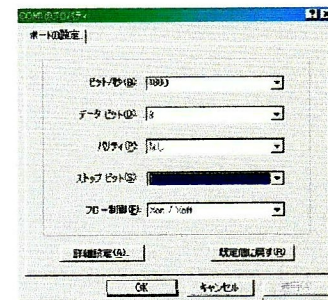
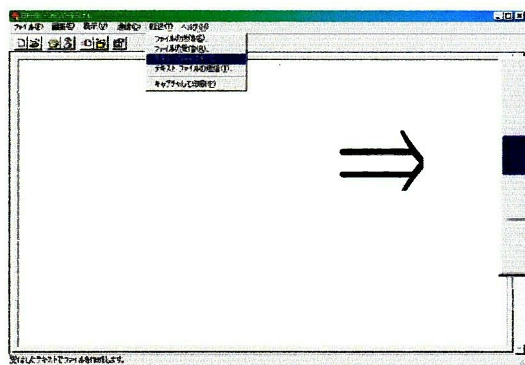
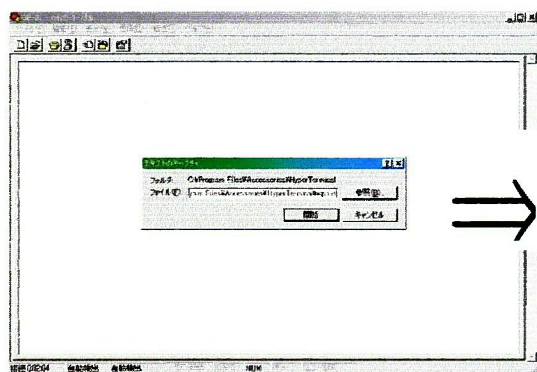
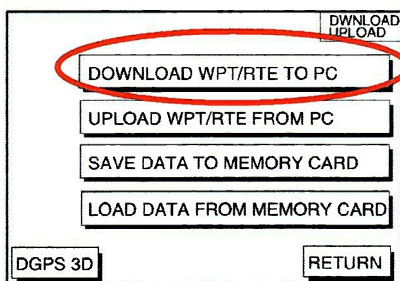
平成 16 年 5 月 26 日
古野電気㈱国内営業部
FUNnet

GP-1640F に記録された目的地データを PC へ転送するためには

以下の説明は、GP-1640F 付属の取扱説明書 11-13 頁に記載の接続ケーブルを作製し OS が Windows98 のパソコンで行ったものです。他の OS での動作確認は当課までお問い合わせ願います。

Windows98 に付属するアクセサリーの HyperTerminal を使って説明します。

HyperTerminal.exe のアイコンをクリック 新しい接続設定を行います。

注：上図では GP-31 となっています。

（新しい接続）名前の入力とアイコンを選択します。(例)名前を GP-1640F にして[OK]を押す。

接続方法で右端の[▼]を押し [Com 1 へダイレクト]を選択 し[OK]を押す。

COM 1 のプロパティ

ﾋﾞｯﾄ/秒を[▼]で[4800] ﾌﾛｰ制御を[▼]で[Xon/Xoff] を選択し[OK]を押す。

目的地データの PC への転送を行います。[転送]を押しダウンメニューの[テキストのキャプチャ]を選びます。(注)[ファイルの受信]ではありません。

テキストファイルの名前を入力します。
(例)HyperTerminal と同じフォルダ-に名前を[wp.txt]とします。(注)後の処理を考慮してユーザ-指定のフォルダ-(ダウンロードしたファイルの収納フォルダ-)にした方が便利です。
[wp]は WayPoint の頭文字。[wp]に処理日を付加しても分かり易くなると思います。
[wp]の後のドット+3文字[.txt]を[.csv]にすると Excel で読み取る際に手間が省けます。

[ＹＥＳ]を押す前に GP-１６４０F の PC への転送準備を行い、[ＹＥＳ]を押します。
(取扱説明書の 11-12～11-14 を参照願います。)
目的地の転送で HyperTerminal の画面にデータが表示され、終わりますと HyperTerminal の画面が止まります。次に HyperTerminal の画面の[転送]を押しダウンメニューの[テキストのキャプチャ]を選択するとその右側に[停止]と[一時停止]のコマンドが表示されますので、[停止]を選びます。
これで、GP-1640F の目的地データは PC に転送されました。
このデータは Excel などの表計算ソフトで加工が出来ます。
(注) これらの処理はユーザーの責任で行ってください。
ユーザーお持ちの GP-1640F 入力済データが消失してもメーカーは責任を負いかねます。
Windows７ではハイパーターミナル機能が有りませんので別途Tera Term等をご利用下さい。
例) http://www.forest.impress.co.jp/lib/inet/servernt/remote/utf8teraterm.html